

こやぎ
小屋木地区(南相馬市小高区) 【福島再生加速化交付金(農山村地域復興基盤総合整備事業(農地整備事業))】

生産者の声

(有) ILOVEファームおだか
(担い手法人)

原子力災害で一時休業を余儀なくされたが、令和元年に営農を再開した。小高区に根ざしたブロッコリー栽培100haを目指し小屋木地区の30ha畑地化整備に期待している。

地区の目標

- 大規模な畑地への転換整備(1.3ha→37.5ha)
- 認定農業者の増加と集積の促進



現況のブロッコリー栽培状況

事業の概要

- 事業工期 令和4年度～令和9年度
- 総事業費 28.4億円
- 受益面積 62.8ha(田:25.3ha、畑:37.5ha)
※畑地割合:60%
- 主要工事
区画整理
内訳・整地工 A=62.8ha
・用水路工 L=10.4km
・排水路工 L=11.4km
・道路工 L=11.8km
・暗渠排水工 A=62.8ha

地域の課題

水田転換畑における営農上の課題 / 排水性・作業性の低いほ場

○畑作の規模拡大と営農上の課題

- ・ブロッコリーの生産法人が営農を再開したが、**経営耕地が市内各所に分散**
- ・水田の転換畑では**作土層の確保**やほ場の**排水性**が課題となっており、**収量・品質が不安定**
- ・ほ場が狭小であり、作業に必要な枕地(管理通路)の配置が十分に行えず、**大型機械の導入が限定的**



整備前の小区画な水田転換畑(緑地はブロッコリー)

事業のポイント

水田から畑地への大規模転換 / 【人・もの・基盤づくり】一体的な事業推進

○水田から**畑地へ大規模に転換し**、ブロッコリー生産法人の**経営拠点として整備**

○併せて**人・ものづくり**を一体的に進め、「**もうかる農業**」を目指す

■基盤づくり(畑地に関する取り組み)

- ほ場を大区画化(最大で4.9haの畑)して作業性を向上
- 傾斜畑として表面水を迅速に排除し湿害を軽減
- 心土破碎を行い作土層を確保するほか雨水の縦浸透を図る
- 石礫除去を行い作業性を向上

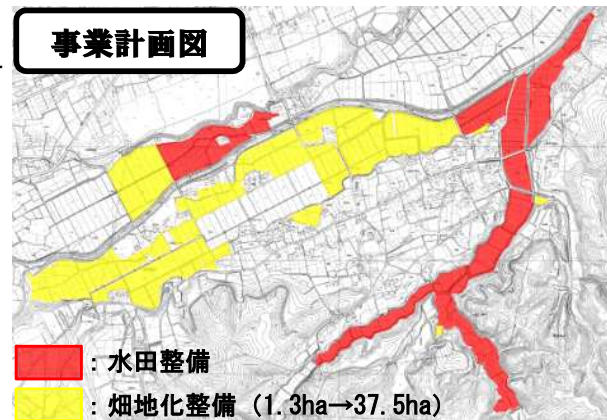
★人づくり

- ・法人経営の高度化
- ・生産組織・個人の経営改善

●ものづくり

- ・高収益作物の導入と拡大
ブロッコリー

事業計画図



事業の効果

大規模園芸団地の形成を推進(他事業との連携)

【実現に向けた取り組み】

望む作業体系・栽培管理

営農支援
土づくり
営農機械・資材購入等

収量品質の向上

担い手
規模拡大・販売
(5者)

大区画化に対応

担い手を中心
とした事業推進

望む区画・土層・排水性

ほ場整備
区画・水路の整備
換地による面的集積等

作業性の向上

営農の視点を反映